



たくさんの笑顔に出会え ホクホク気分になった淡聴協の新年会

1月15日に洲本市のエトワール生石で行われた淡路聴覚障害者協会主催の新年会に入居者等20名が参加。おいしい食事に舌鼓をうち、楽しいゲームに興じるなどろう協や手話サークルの会員さんたちと交流を楽しみました。帰ってくるなり皆さん「楽しかった〜!」と。今年も地域の行事への参加やお出かけをしたいとの入居者の想いが広がります。みなさんお声掛けをお願いします。

また、ふくろうの郷では、地域やボランティアの方々の協力も得ながら、若い時に培った腕を生かせる仕事づくりや絵手紙、書道などのふくろう大学、伝統行事などを行っています。今年も入居者一人ひとりに合った暮らしを作っていきます。

地域で生きる・暮らしを作る



大根の漬物作り。みなさん豊富な経験をお持ちで、手際よく作れました。「昔の漬け方は違うなあ」「出来上がりが楽しみや」と話が盛り上がります。



編み物が得意な女性陣。毎日集まっては編み物や小物づくりを楽しんでいます。「今度は何を編もうか」「こうして編むんやで」と得意気に説明してくれます。



絵手紙教室。毎月ボランティアさんが丁寧に教えてくれ、立派な作品ができあがります。作品はふくろう郷の廊下に展示され、また毎年、県聴障ネットのカレンダーや法人の年賀状を飾ります。



ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

ホームページ

<http://www.normanet.ne.jp/>

hyoufuku/

毎年地域の方とともに行われるどんど焼き。今年も一月一七日に平野俊和さんお手製の本格的なしつらえで、お正月のしめ縄や書道の作品が燃やされました。本来であれば無病息災を祈るところですが、年齢を重ねると無病でいることはなかなか難しいです。病気があっても息災(達者)で。多病息災で過ごせますよう。

ラオスのろう者の自立を目指して奮闘中！！

～ラオスろう協会副会長 ハニタ・マイポンさん～

1月15日に開催された「兵庫県ろうあ者新年大会兼成人祝いのつどい」に講師として来日されていた、ハニタ・マイポンさんにふくろうの郷に訪問いただき、交流しました。



▲質問が相次いだマイポンさんの講演

マイポンさんは2歳で聞こえなくなり、健聴者の通う幼稚園を経て、ろうの小、中学校を卒業。ろう学校では手話で授業をやってもらえ、楽しく通学しました。しかしラオスではろう学校は2校しかありません。しかも中学校までです。自立を阻む大きな原因に、ろう教育の遅れがあります。ラオスでろう学校が初めて設立されたのは平成2年、看護師が3か月タイで

の研修後設立したものです。2校目が平成10年に設立。ろう教育を受けられる人はまだまだ少ない現状です。

社会に入っても職業の種類は少なく、大半は家業の農業を手伝うか、バイクの修理、裁縫、クッキー作り、美容院などです。賃金も安く、また結婚しても親からの援助は欠かせません。

また手話通訳者の養成も課題となっています。現在、ラオスでは手話通訳者は2人だけですが、ろう協会でも雇用していましたが、経費の関係で常時雇用が難しくなり、会議など必要な時だけ、来てもらう形になりました。ろう協会の専従職員は2人です。独自資金はなく、フランス等の大使館を回り、運営資金の援助を依頼しています。障害者を支援する福祉の制度もありません。

※ラオスはベトナムやタイ、カンボジアに囲まれた国です。長い間フランスの統治下におかれ1950年によりやく独立しました。戦争の爪痕が今も残り、地雷除去などが大きな問題となっています。



▲ふくろうの郷、最高齢101歳の土居さんと

国連の障害者権利条約が各国にくまなく広がり、ろう者が自立できるように社会を変えていく活動にエールを送りたいと思います。

大根まつり

1月27日



▲かまどを囲んで談笑する地域交流会のみなさん



▲森田さんとたくさん話せ楽しかったと、長岡さん

毎月の料理講座、1月は恒例の大根まつりを取り入れました。毎年、中川原地域の平野俊和様が入居者に食べて欲しいと自ら育てられた大根を持ち込んでくださいます。地域交流会の皆さんも大勢参加いただき、庭で火を起こし、昔ながらのかまどを据え、火を囲みひとしきり世間話に興じ、お昼にはできあがったおでんを食べていただきました。こんなことをしていますよ」と状況を説明したり、いろいろお話ししながら一緒に調理をされました。長岡さんから「今日はたくさん話ができて楽しかった」と喜んでおられました。

長岡保さん(91歳)は盲

ふくろう物語 八木昭さん

平成28年5月末に三木市から入居された八木昭さん、68歳。生まれつき聞こえませ

んが、神戸ろう学校小学部の時に目も見えにくくなり、ろう学校中学部を卒業後は、両親のお世話を受けながら家の農業の手伝いをされていました。ろう者とかかわりは唯一同じ盲ろう者の弟さんだけでした。そのことから、ご飯、お風呂などの身振りは理解できず、触手話でのコミュニケーションは難しい様子が見られます。



▲中川原ふれあいセンターで陶芸に取り組み八木さん



▲自分で作ったしめ縄をもって

日中は居室で過ごされています。

ふくろうの郷に入居後は、

ですが、行事がある時にお誘いすると、とても良い表情を見せてくださいます。料理講座では団子を丸め、餡を包むのも上手にされ、楽しまれました。また、年末のしめ縄作りでは、素晴らしいしめ縄を作られました。かつては「縄ない機」を操作して丈夫な縄を製造されていたようです。これに驚いた職員は、行事の時だけでなく、日常生活の中で何か八木さんの得意なことを増やしたい、暮らしをふくらませられないかと、中川原ふれあいセンターで行われている陶芸教室にもお連れし、お茶碗作りにも取り組んでもらっています。

生活の中で何を目標にしていたのか現在は模索中です。盲ろう通訳・介助員制度も利用して生活の幅を広げられるようこれからも支援を続けていきたいと思います。

食費・部屋代の負担増 で法人減免申請の増 加 16人へ

以前もお伝えしてきたとおり、昨年8月1日より「介護保険負担限度額」についての要件が変更され、障害基礎年金など非課税年金も収入に勘案されるようになり、居住費や食費の負担が大幅に増えることになりました。月額で2万円以上の負担増です。月約8万円の障害基礎年金のみで生活している方にとっては年金額を超える方もでてきます。生活を楽しむお金も残りません。そのため、一定の要件を満たした方は、「社会福祉法人等

淡路ふくろうの郷では入所待機者が減っています。特別養護老人ホームへの入所要件が「要介護3」以上に制度が厳しくなったことも一因ですが、加えて孤立が進んで助けを求められない状態の方が増えているのではないのでしょうか。入所申し込みされても、ご家族での支援ができていたり入院中などで、すぐには入居を希望しない方もおられます。

**ふくろうの郷では、皆さんからの
入所相談をおまちしています**

地域で暮らす高齢聴覚障害者のみなさん、コミュニケーションがうまく取れずに孤立していませんか。一人暮らしで助けを求めることができない方はいませんか。皆さんの身近に困っている方がいれば、ぜひお知らせください。

による利用者負担軽減制度（以下法人減免）を利用することができません。利用者の負担は減らせませんが、法人が肩代わりすることになります。淡路ふくろうの郷のような収入が福祉年金のみの方が多く暮らしておられる施設にとっては大きな負担となります。平成29年1月31日現在、法人減免の利用者は、16名(内ろう者14名)です。これにより、年間の法人の負担額は約220万円になります。当施設の現状をお伝えし、入居者にも施設にも厳しくなる一方の介護保険制度について、共に考えていきたいと思います。

おかげさまであれから20年 **3月5日** 第20回淡路耳の日の集い兼
20周年記念大会でお待ちしています

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

記念講演
**「障害が障害でなくなる日
 ～相模原事件と絡めて～」**
講師：松本 晶弁護士（ろう者）

記念式典：13時～13時半
記念講演：13時半～
交流会：15時15分～
場所：洲本市総合福祉会館（山手会館）



▲平成9年6月2日設立時の洲本市市長と淡聴協会長の齊藤勇氏。当初は洲本市役所内の給湯室と共用していた10平方メートルの一室からのスタートでした。

1 20周年プレ企画
 昨年8月22日に全国手話研修センター所長小出新一氏を講師に学習会を行い、午後からは小出氏をはじめ、設立当時の関わりのある方をお招きし、設立のきっかけや行政との交渉など当時の思い出やこれから期待することなどを中心とした座談会を開催しました。

2 記念誌の発行
 記念誌発行にむけて、編集会議を重ねています。プレ企画の座談会の様子や、ともにあゆむ中で学んだろう者の暮らしや苦勞、これからのセンター事業の展開などについて記載する予定です。魅力的な冊子になるよう職員一丸となって取り組んでいます。

3 パンフレット刷新
 センターの案内パンフレットも刷新しました。今回は、ろう者でイラストレータの奥山洋介氏のイラストとともにセンターの事業内容をわかりやすく紹介しています。役所などの窓口において活用していただきます。

パンフレットが新しくなりました



4 記念大会開催
 あわじ耳の日の集いが20回目の節目ということで3月5日「第20回あわじ耳の日のつどい兼淡路聴覚障害者センター20周年記念大会」開催します。昨年8月より耳の日実行員会を月1回会議を開き、当日の式典や交流会の内容など話し合ってきました。当日は記念講演も予定しています。また講演後の交流会では20年間のあゆみや思い出を振り返りながら、これからのセンター像についてみなさんと語り合う場にできればと考えています。3月5日ぜひご来場ください、お待ちしております。



▲二人ずつペアになってコミュニケーションを楽しむ参加者

中途失聴難聴者やご家族、支援されている方を対象に開催しました。講師で淡路ふくろうの郷の言語聴覚士齋藤奈奈さんと一緒に口形を読み取るコツなどをクイズ形式で学習しました。初めて参加された方は「広報を見て申し込みました。最近聞こえにくくなってきたので人と会うのを避けていたが、同じような悩みを持つ方もおられることが分かった。センターや難聴者協会など相談や気兼ねなく話ができるところがあるのが分かった。これからは少しずつ参加していきたい」と話されました。

楽々コミュニケーション
 1/22 福良地区公民館
**気兼ねなく話せて相談
 できるよ！あったんや**

中川原高齢者・障がい者
地域ふれあいセンター



〒656-0002

兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2



▲ 今後ますますの発展を祈念し乾杯！

1月22日(日)ふれあい
センター内ふれあい広場
「桜が丘」にて「おたがい
さま報告会、社会貢献表
彰贈呈式&祝賀会」を開
催しました。

社会貢献表彰贈呈式&祝賀会

この賞はふれあいセンタ
ーの取り組みを通じ中川原連合
町内会が受賞したもので開所
当時の連合町内会長であった
藤井一男様から当ふれあいセ
ンター運営委員長の堂内克様、
法人を代表して淡路ふくろう
の郷橋詰事務長に表彰と目録
が贈呈されました。その後は当
日ご出席いただいた40名の
方々で短時間ではありますが
交流を深めました。



▲ 藤井様から堂内様に表彰と目録を贈呈

今回の賞を励みに今後ま
す中川原がよりよい地域と
なりますよう、ふれあいセンタ
ーも活動していけたらと考
えております。
(濱田)

共同作業所 神戸ろろあハウスより

「ありがとう」

の言葉

昨年3月頃から通い始

めたAさん。まじめでお
なしい性格です。とてもシ
ヤイな方で、自分から話し
かける事は少なく、まわり
の様子をみて、クスクス笑
ったり、「何をやってるんだ
ろうなあ？」と不思議そう
な表情をされたりします。

病気を乗り越えて

ろう学校を卒業されてか
ら、ずーっとまじめに仕事
に就いてましたが、病気が
少し重くなり、やむなく退
社して、ろうあハウスに通
うようになりました。毎週
水曜日はリハビリに通っ
ています。作業は時間がか
かることはありませんが、あ
きらめず、最後までしっか

取り組む頑張り屋のAさん
です。不満や愚痴、怒ったり
することは無いのですが、今
までの環境とはガラッと変
わって、神戸ろろあハウスに
通って楽しいのかなあと
少し心配でした。

未来の夢実現を！

年末に「書きおさめ」を自
由に書いてもらったら、Aさ
んが、「ありがとう」と書きま
した！神戸ろろあハウスに
通うようになったことに「あ
りがとう」なの？と勝手に大
感動してしまいました。
を目標したいです。(野村)



▲ 仲間が「おめでとう」と書きました



淡路ふくろうの郷から北へ1キロメートルほど行つた集落の道添沿いの林の中に、二つに割れた大きな石が目につきます。安産地蔵が祀られています。記述については、「中川原村史・安産地蔵田村正著(故人)・ふるさと神々と仏たち」に紹介され

ていますが、ここでは後者の記述について紹介させていただきます。

○二ツ石・安産地蔵

旧岩屋街道が二つ石で出合う三叉路の近くに二ツ石にある。二ツ石は長さ約6メートル、高さ2メートル余りの卵円形の巨石が二つに割れ、切り口が向い合わせに転がり、その合わせ目に小さな木の祠が祀られている。本尊は小さいので目鼻も刻まれていない地蔵尊で安産のご利益がある。下の石の側面には線刻の地蔵尊が彫られている。この巨石には、千光寺縁起にまつわる伝承が残されている。郷土誌の「味地草」には、「路傍に両断の巨石がある。弘法大使の踏み割り石とも言ふ。石面に足跡ありこの石があるので村名を二ツ石とした。」

また一説には、「先山千光寺開基の狩人忠太(法号寂忍)の妻子が播州より夫忠太の後を慕って当国に渡り、この村

まつる安産地蔵

ふ 二ツ石、割れ目に

北 岡 肇

続々・地域を語る
中川原むかし話
かるた 口説き
NO31

に宿をとって使いの者やつて呼び戻そうとした。が、既に寂忍と名を改めて仏に仕える身の忠太が道心固く妻子に合うことを拒んだ。忠太の妻や子が大いに嘆き悲しみ、その子が岩によじ登り足摺りして父の名を呼ばわり叫んだら岩は割れてしまった。」と記している。

一方、大照寺に残る文書には「忠太を尋ねてこままで来た妻、ここで休んだときに産気づいたが安産であった」といい、村人たちはここに「安産地蔵」を祀って供養したという。

祭日は八月二十三日の地蔵盆となっている。

2月・3月 ふくろうの暮らし

- 2月 18日 手話講座
- 2月 22日 独居老人食事会
- 2月 25日 職員採用試験
- 3月 4日 (見学)
高槻市聴覚障害者協会
三田市人権を考える会
- 3月 5日
あわじ耳の日のつどい
淡路聴覚障害者センター
20周年記念大会
- 3月 6日 ふくろう理髪店
おのころ屋 パン販売
- 3月 8日 ちぎりえ
- 3月 11日
ふくろうの郷家族会
- 3月 18日 (見学)
明石市手話サークル
- 3月 20日 (見学)
徳島県美馬市
- 3月 25日 法人理事会

職員を募集しています

共感と感動をともに実践にいかしていきましょう



【職員からのメッセージ】ふくろうの郷で仕事を始めて1年になります。私はろう者なので聞こえない入居者とはコミュニケーションが取れますが、聞こえる入居者とのコミュニケーションは上手いかないこともあります。コミュニケーション面でも、聞こえる職員と協力して入居者の対応をしています。ふくろうの郷の職員はろう者の文化や言語が聴者と違うことを理解して、仕事内容も手話で丁寧に教えてくれるので、とても良い職場環境だと感じています。ぜひ一緒に働きませんか!



(生活支援員・看護師・調理員・ケアマネージャー)

試験日 2017年2月25日(土)

(詳細は淡路ふくろうの郷総務部 0799-25-8550 橋詰まで)